

# どのした淵

## 【大山祇神社祭り】肅々と開催

♪ 我們的鎮守の神様の♪ お祭りは例年11月21日に開催しています。今年は日曜日で尚且つ晴天に恵まれ肅々と開催されました。当番(3班)の皆様、調度品の準備からご苦労様でした。また、参加の皆さんもありがとうございました。

高峯の神社は、祭神大山祇命(さいじん)とおやまつみのみこと。天文三年午年(1543年)高峯門の代左衛門勧請(よさえもんかんじょう)とある。平成8年に大規模改修し、現在の祭殿になりました。大平の神社は高峯の神社と祭神、創建年同じ。大平屋敷作之丞勧請と伝えられています。

私が小学校の頃、下校時に「つくや甘酒、赤飯」をもらって食べるのが楽しみでした。当時は神社前に、中がうと(空洞)になった大樹がそそり立っていたのを覚えています。

これらの神社は村人に営々と見守られ、村の安全と繁栄を培ってきた貴重な村の財産です。これからもしっかりと引き継ぎ守っていかねばなりません。



## 発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

12月1日発行

## 【どのした淵】活用 of 夢

どのした淵に隣接する原野(農地跡)に、地主さんの了解を得て、徳丸建設の現場掘削土により、埋め土をしてもらうことになりました。進入路との取付き高まで埋めて、原野との出入りが可能になれば、駐車場としての利用はもとより、キャンプサイトとして活用の誘因にならないかな。

どのした淵から高規格道路泊野インター下までの河川沿いの農地跡に、元きらの里キャンプ場の管理棟、テント、東屋など移設し、物産館を含むサービスエリアとして活用できれば、土地の有効活用と集客につながるのではと目論み、淡い期待と夢を抱き、各種機関・議員の先生方に話しているところなんです。その館で地元産の野菜や・米などを販売し、地元産品の消費拡大と、所得増につなげられたらと思います。今後進捗に応じては、みんなで語らなければならぬと思うので、よろしくお願います。座して待つより行動あるのみ!



## 【柿大豊作】資金稼ぎにチョット!

今年はどこも柿が豊作でしたね!わが家でもミカン畑跡に植えた柿が大豊作で、あんまり虫にもやられず永く成っているもので、ちぎって泊野インター出口で振舞いました。ただし、志 有らば地域活動を御支援下さい。と募金箱を添えて。

どしどし集まるかわかりませんが、カラスの餌になるよりましかなと思つて。1000円でもあれば御の字です。集まった浄財は公民会一般会計の雑収入に入れたと思います。新たに何かを作り出すのには、それなりのエネルギーと資金が必要ですが、今ある物をどう活かすかはアイデア一つでどうにでもなります。地域の資源・産物に磨きをかけ、活用して行けばまだまだ物・金になるものはいっぱいあるのではないのでしょうか。そこに気づき、やる気をもつて取り組んでいけたらいいかなと思います。

年間を通してほしてうつちえても実る野菜や果物などいっぱいありませんか。菜園でたくさんできてうつしえるには勿体ない白菜や根菜類など、「どのした淵活用の夢」で思案中の物産館で、家庭菜園のおすそ分けとして販売できれば、そんなにプレッシャーなく皆さんが出品出来るのでは!!



## 【轟の滝周辺除草・紫尾山清掃】

1月14日(日)は、午前中に活性化委員会の紫尾山対策部会と区役員により、轟の滝進入路と周辺の除草作業が行われ、午後からは青少年育成町民会議泊野支部の活動である紫尾山清掃が実施されました。

轟の滝は泊野の名所として轟々と力強く清らかな水を湛えています。地域への入り込みを増やすためには重要な資源です。有る物の可視化、財産磨きは活性化の大きなポイントになると思います。みんなで輝かせましょう。

紫尾山も然りです。地元にいれば近すぎて気付きづらいし、登ることも無いかもしれませんが、様々な珍植物の宝庫です。紅葉や樹氷など南国では非常に稀な自然現象・鑑賞に預かれます。まさに灯台下暗しってところでしょうか！子どもたちにもこのすばらしさを伝え、ふるさと愛を成就するために実施されているこの行事に、区民全員で積極的に参加ししっかりと学び地域の宝を再認識しましょう。



## 【ふるさとの史跡散歩】

### 紫尾山3つの石碑

当時の出水市議会議員小野仁八氏が代表になり、並々ならぬ情熱と御尽力により建立されたものです。それぞれの文字の意味については各自学習を！

①福岡正信記念碑【昭和59年(1984年)建立】  
有機農業で世界的先覚者である福岡正信先生(愛媛県出身)の碑。堀切峠から町道紫尾山頂線に入っすぐ左の所。「大地に広狭無く 碧空に遅速なし」

②棕鳩十記念碑【昭和59年建立】

児童文学者で、親子20分間読書運動を提唱された棕鳩十先生(長野県生まれ)の碑。親子20分親子読書運動提唱前に、泊野地区では実践活動を通して地区住民と親密に交流され、運動の基盤を築かれた。鹿児島県立図書館長・動物作家。泊野小学校校歌も、久保田彦穂(本名)として作詞されている。堀切峠から町道に入って右の所。「似山心高 如林心深」

③王貞治記念碑【昭和56年(1981年)建立】

孟子より選んだ「孔子登東山而 小魯 登泰山而小天下」の教えを王貞治氏に書いてもらったものである。紫尾山頂の所。



## 編集後記「田の神(たのぐみ)について」

いよいよ師走(しはす)。年の瀬を迎えます。1年を締めくくる12月は年越し準備で忙しく、「普段は落ち着いた先生(師)ですら走ってしまう月」だから「師走(しわす)」と呼ぶ・・・と覚えている方が結構多いのでは。

実は「師走」の由来や語源には諸説あるのです。毎度おなじみウィキペディアより「しはすの語源」にかかる様々な説について紹介します。

①経をあげるために師僧が東西を馳せ走る月であることから、シハセ(師馳)の義  
②四季の果てる月であることから、シハツ(四極)月の意

③トシハツル(歳極・年果・歳終)の義

④ナシハツルツキ(成終月)の転略

⑤農事が終わり、調貢の新穀をシネハツル(歛果)月であることから

⑥稲のない田のさまをいうシヒアスの約シは発声の助語。ヒハスは干令残の義

⑦シヲヘオサメヅキ(為竟収月)の義

⑧セハシの義

⑨シバシ(暫)の月の義

月の語源一つにしても様々なあるのですね。日本人の造詣の深さをしみじみと感じながら、寒空に三冬の月を眺めています。チャンチャン (ー)ー☆